

ブルーカーボンからつながる共創 のまち阪南

大阪府阪南市 × 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

(登録団体：大阪府阪南市)

取組概要

大阪府下の沿岸で唯一残された自然の浅場を持つ阪南市では、豊かな自然環境を市の財産として捉え、2018年より小学校での海洋教育の促進・充実に取り組んでいる。さらに、ブルーカーボンからつながる共創のまち阪南として、官民連携による持続可能な環境保全活動の促進や生物多様性保全の取組みを推進し、地域ブランド力の向上による関係人口・交流人口の拡大を通じた地域活性化を図っている。



海洋教育パイオニアスクールプログラム



G20大阪サミット・配偶者プログラム

基本情報

代表地方公共団体等	大阪府阪南市
代表民間団体等	一般財団法人セブン-イレブン記念財団
他の連携団体等	NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 尾崎漁業協働組合 西鳥取漁業協働組合 下荘漁業協働組合 日本財団・笹川平和財団海洋政策研究所
カテゴリ	ゼロカーボン 環境保全対策 教育プログラム・学力向上

事業費	海洋教育パイオニアスクールプログラム補助金、SDGsモデル事業補助金、阪南市SDGs基金
目指すSDGsゴール	  
事業化までの期間	2018年6月～

取組内容



阪南セブンの海の森活動



アマモの花枝とり

この取組で解決した課題	<p>環境省が発刊する環境白書では、「歴史的には、地域の環境を破壊しながら開発が進められることもあり、従来は、環境を保全することは地域の開発、発展を妨げるものだと考えられてきました。しかしながら、環境保全の意識が高まっている今日、各主体の間で環境保全型の地域開発の重要性が認識されるようになっており、こうした形での地域開発を進めていくことによって、地域の発展と環境保全の両立・統合につながっていく。」とされている。本市におきましても昭和40年代には住宅開発に伴い人口も増加していましたが、2003年以降、人口は減少し続けており将来的な人口減少の加速化が懸念される状況にありましたが、自然共生サイト認定・OECM登録により、環境保全に取り組むまちとしてクローズアップされ、多くの企業や、他自治体との協働の取組が推進され、関係人口・交流人口の拡大が計られている。</p>
解決に向けた手法	<p>昨年、SDGs未来都市および自治体SDGsモデル事業に選定され、カーボンニュートラルの取り組みを推進している。セブン-イレブン記念財団と「阪南セブンの海の森づくり」協定を締結し、NPOや各漁業協同組合との協働でアマモ場再生活動を行っている。</p> <p>2018年より開始した小学生の海洋教育も広がりを見せ、現在は、阪南市全小学校8校にて実施している。これらの活動を踏まえ、2023年にJブルークレジット認証された他、2023年10月には、環境省の自然共生サイト認定・OECMに</p>

	<p>登録されるなど生物多様性の面からも地域の価値向上が図られている。</p> <p>このように、子どもたちを中心としたアマモ場環境保全活動によるカーボンニュートラルの取組みが、地域社会の基盤となる教育や福祉などにも繋がる事で、地域全体の活性化につながっている。</p>
--	---

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<p>阪南市は、教育委員会を中心に子どもたちへの環境・海洋をテーマに探究型協働学習への取組み。</p> <p>一般財団法人セブン-イレブン記念財団は、セブンの海の森活動を主導し、環境保全に関する活動を推進。</p> <p>NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センターは、活動を広く展開し、各漁協との調整や取組に関する指導を実施。</p> <p>日本財団・笹川平和財団海洋政策研究所は、探求型協働学習等を支援。</p>
地域関係者との連携方法	<p>【市民・企業】海の清掃活動やアマモの保全活動への参加者を市の広報紙やSNSにて発信し、活動支援者として協働。</p> <p>【連携自治体】連携による情報発信による相乗効果を図りつつ、互いの地域資源を生かし、補完し支え合う「地域循環共生」の考えを踏まえ、資源循環・環境保全活動等の交流を通じ、それぞれの地域における社会課題の解決に向け共に取組む。</p>
資金調達方法	<p>海洋教育パイオニアスクールプログラム補助金、SDGs自治体モデル事業補助金、阪南市SDGs基金等を活用</p>
資金調達方法の補足	<p>本市のブルーカーボンにつきましては、国の認可法人『ジャパンブルーエコノミー技術研究組合【JBE】』のJブルークレジット制度にて認証をいただき、Jブルークレジットとして企業等に購入いただいている。</p> <p>また、昨年度はSDGsモデル事業補助金を利用し「阪南市ブルーカーボン推進事業補助金」として上限5百万円の補助を実施している。</p>
事業推進上の課題・工夫	<p>令和4年5月、内閣府よりSDGs未来都市として選定された本市の「C o -ベネフィット創出プロジェクト」は、地域資源を活かし、カーボンニュートラルの取組を通じて様々な恩恵を創出することで、持続可能で好循環な地域づくりの実現を図るものとなる。阪南市の都市近郊に残された自然環境を活かして、海域において生物多様性保全活動を通じたブルーカーボン生態系の保全を推進し、C o -ベネフィット創出を推進している</p> <p>工夫した点としては、これまでは、それぞれの場所で活動していた活動を、目的を共有しお互いのメリット等を検討しながら、共に活動することに重点を置き調整を行った。これにより、1つの活動が、その他の活動にもつながるといった、相互関係性が生まれている。また、この様なSDGs未来都市の選</p>

定に加え、大阪・関西万博の共創チャレンジ等をきっかけに新たな共創が生まれるなど、カーボンニュートラルを通じた共創のまちづくりが大きく推進している。

課題としては、環境保全の取組は促進されてきたが、持続可能な取組とするためには、経済効果に結びつく仕組みづくりが必要と考えている。

担当者のコメント

SDGs 未来都市モデル事業の推進に向けて、ブルーカーボンの核となる一般財団法人セブン-イレブン記念財団との連携は大きな取り組みとなります。また、日本財団・笹川平和財団海洋政策研究所の支援による海洋教育パイオニアスクールプログラムは、本市のブルーカーボンの礎と考えています。

阪南市におけるアマモ場の保全・再生はこどもたちが主人公です。

大人はこどもたちをそれぞれの立場からサポートします。

人と人とのつながりが、こどもを育て、地域を育てます。

こどもが地域を愛することで、大人が気づき、地域を育てます。

こどもたちが大人を巻き込み、それが地域へ広がっていきます。

こどもたちは、未来の大人です。

今のこどもたちが大人になるときまで、継続できるように…

継続できれば、今のこどもたちが、自分のこどもたちに伝えていきます。

そして、そんな子供たちの活動を引き続き地域全体で支えていきます。

本市をフィールドとした海洋環境保全の取組により、生物多様性の向上や生物資源の増加だけでなく、漁業を含めた地域の活性化に結びつけていければと考えています。



アマモの保全・再生活動の主人公たち

問い合わせ先

団体名称	大阪府阪南市
部局名	未来創生部シティプロモーション推進課
氏名	前田雅寛
電話番号	0724715678

eメールアドレス

city-promotion@city.hannan.lg.jp

優良事例応募項目

応募にあたっての記載事項

①地方創生SDGsの視点

ブルーカーボンの取組みを核として、多様なステークホルダーとの共創を進め、新たな地域ブランドの確立や関係・交流人口の拡大、海洋教育パイオニアスクールプログラムを通じて、環境・ふるさと意識の醸成につなげるとともに、本市に集う多様な人々と共に、Co-ベネフィット型の地域活性化を目指すものであり、カーボンニュートラルな社会の構築にも大きな役割を果たすものと考えている。

②ステークホルダーとの連携

セブン-イレブン・ジャパン株式会社を通じて、セブン-イレブン各店舗・家族を中心に連携。

NPO大阪湾沿岸域環境創造センターは、活動を広く展開し、各漁協や活動参加者との連携。

(株)漁師鮮度は、海とのふれあいを通じて、漁師や地域の高齢者、福祉施設に通う方々と連携

③モデル性・波及性

環境保全に積極的に取り組む企業や市民、他の自治体とのつながりを深めている。この事業が、環境を合言葉に地域をつなぐ懸け橋となりえる存在として確立されつつある。本市同様に取り組んでいる。また、取組を検討している企業や自治体からの視察や問い合わせが増加しており、今後、益々本事業の広がりが期待されている。

更に、本年10月に環境省に認定された自然共生サイトとしては、沿岸域・自然系海岸（藻場）として、自治体では、唯一の認定であり、30by30の目標達成に向け貢献しているものとする。